

3月1日、全組合員の団結力を結集するための支部春闘決起集会を提案しました。



続いて、各部会で開催された春闘討論集会においては、実質賃金の引き上げを目指し、各部会とも要求額を40,000円とすることを確認しました。あわせて、春闘要求の実現に向けた決意が、各部会の事務局長より報告されました。全体討論では①産別最低賃金をはじめとする中央港湾団交の内

容について②マイナンバーカードについて、持たない場合の不便さと、持つことによる情報管理への不安を踏まえた今後の方針について③全国および各地方の情勢について④必ず起こるといわれている南海トラフ巨大地震への対策について⑤新加入の分会員から、全港湾の魅力についてなど幅広い意見から活発な全体討論となり、支部26春闘討論集会まとめとして要求額は基本給一律40,000円、支部春闘方針案についても全体で確認しました。最後に、小林委員長による団結がんばろうで26春闘討論集会を終了しました。

(書記長 吉 馴 真一)

りました。小林委員長の力強い年頭挨拶に続き、鈴木中央委員長、小嶋大港湾協議長、湯川関西地区生コン執行委員長から熱い激励の来賓挨拶をいただき、加地港湾経営連合会会長の乾杯の音頭で、懇親会が本格始動。各政党からの心強い挨拶も続き、会場はますます一体感に包まれました。



そしてクライマックスは豪華賞品が目白押しのビンゴゲーム大会、笑顔と歓喜の声があふれ、名物司会の和泉執行委員のおかげで、大変盛り上がりました。

最後は、小林委員長の「団結ガンバロー！」三唱で、全員が拳を高く掲げ、2026年の厳しい春闘に向け、固い団結を誓い合いました。仲間との絆がさらに深まった、最高に熱い新春旗開きとなりました。

(副執行委員長 吉本 賢一)

2026元旦行動

— 今年で8回目 —

2026年1月1日10時より、大阪府警前で反弾圧実行委員会主催のもと「元旦行動」が約450人の参加で開催されました。大阪全労協南議長のスプレヒコールを皮切りに、反弾圧実行委員会から小林代表、連帯ユニオン関西生コン支部から湯川委員長より挨拶を受けました。その後、京滋、兵庫、東海の各実行委員会、各政党関係、共闘する各労組、市民団体と数多くのアピールがあり、その合間にスプレヒコールが繰り返されました。そして、全労協の南議長がまとめを述べ「今年こそ国家権力の労働弾圧に打ち勝とう！」という思いを共有し、力強いスプレヒコールを上げ終了しました。



現在も裁判闘争は終結しておらず、権力弾圧は続いています。そのため、労働者をはじめ市民団体と共に声を上げ続けています。日本においては、検察から起訴されると、裁判では99%が有罪とされるが、今回の弾圧では、これまでに多くの無罪判決が出されており、如何に仕立て上げた権力による弾圧のストーリーであるこ



とが分かります。もはや労組弾圧は、当該組合やユニオンだけでなく、憲法28条を蔑ろにする行為であり、労働組合そのものの存在価値が無くなります。

裁判では現在も不当な判決が繰り返されています。だからこそ私たちは正当性を主張する為、声を上げ続け運動を大きくすることが重要です。今年で元旦行動は8回目となりましたが、誰もが穏やかな新年を迎えられるように、今年こそ終止符を打つたたいを展開し、尽力しなければなりません。

(副委員長 横山貴安基)

第47回中央委員会

世界に誇れる春闘に

春闘勝利！組織拡大！

1月29日・30日、全港湾第47回中央委員会が豊橋シーパレスリゾートにて、来賓に竹内全国港湾執行委員長を招き、中央委員47名、執行部19名、来賓1名、傍聴47名、総勢114名で開催されました。鈴木誠一中央執行委員長は冒頭のあいさつで、春闘方針



案作成時から、現在までの目まぐるしく変わる情勢について述べ、「政府が干渉する官製春闘と言われているが、労働組合の使命は大幅な賃金引き上げと、諸労働条件の向上を団結の力で勝ち取ることだ。そして最重要課題は組織拡大と組織強化するために、この中央委員会で活発な討論をして頂きたい」と力強く述べました。

物価高に負けない大幅賃上げ

松永書記長による各議題提案の後に、質疑討論では、年末年始例外荷役、港湾産別最賃問題、特定利用空港・港湾、青年部の活動、25春闘の日曜ストライキの闘い方、RTG遠隔自動化、熱中症対策、国際バルク港湾戦略、衆議院

議員選挙、指定事業者問題、ソーラス内での防災無線設置、規制緩和によるバス事業者の新規参入、トラック・バスのブレーキアシストの誤作動問題、辺野古新基地の課題、平和行進の取組み、石炭火力発電所の休廃止問題による職域の問題など様々な質疑が出され、時間が足りないほど多くの質疑と答弁がありました。

まとめとして、26春闘は統一要求基本給一律40,000円を掲げて、各々が精一杯たたかい、全港湾の団結を日本だけでなく世界に見せつける春闘としてたたかっていくことをお願いしたい。全港湾は春闘で負けたことがないという心意気をもって、必ず勝ち取って我々の生活を維持することを念頭に置きながらたたかうことをお願いすると訴えた。支部からは執行部5名が参加しました。

(書記次長 関谷 和人)

支部新春旗開き

春闘討論集会のあと、支部新春旗開きを来賓46名をお迎えし、ホテルクライトンにて盛大に開催しました。

名物の青年部による港湾労働歌の合唱で、幕開けの予定が、歌詞



が出てこないハプニング発生し、青年部役員OBで、受付をしていた横山・吉本の両副委員長が即座に飛び入り参加し、迫力満点の歌声で会場を一気に沸かせ、大爆笑と拍手喝采の最高のスタートとな